

「望遠鏡博物館見学」

桑田直宏

6月30日に望遠鏡博物館を見学してきたので報告します。きっかけは、今シーズンの火星のために惑星専用のマク・ニュートン、Alter7n(18センチ)のメンテナンスをお願いしたところが四国のヨシカワ光器研究所でした。ゴールデンウィーク前に連絡したところ、予約がいっぱいで6月になったらなんとか出来そうとのこと。今シーズンの火星は12センチ屈折にして、2年後の大接近に向けてお願いすることにした。

この望遠鏡は大きくて重く、とてもパッキング出来そうにないので、直接車で持ち込むことになった。そこで、せっかく来られるなら望遠鏡博物館をご覧くださいということなり、四国に遠征することになったのである。

場所は香川県さぬき市の山の中。廃校になった小学校を市がリニューアルしてたくさんの望遠鏡を展示してあるとのこと。ボランティアが運営しているので基本的に土日だけの営業になっていた。

約束の13時に小学校の校庭だった駐車場に到着すると、吉川さんが出迎えてくれた。70代の親切そうな方だった。望遠鏡を渡して、光軸修正とクリーニング、鏡筒内は艶消し塗装をお願いすることになった。なんでもこの望遠鏡もこれまで30台ぐらいメンテナンスされたようで、この望遠鏡の長所や欠点もよく把握されていた。最近も30センチを調整したとのこと。しかしあまりにも大きく、オーナーは5年間使って惑星がよく見えたのは1回だけとか。惑星に限っては大きければいいとは言えないのである。この18センチは口径とシーイングのバランスが絶妙で、よく見えるはずだと言ってくれた。

確かにこれで見る木星や火星は次元が違う見え方だった。惑星面の模様が全体的により濃く見えることに加え、特に木星のフェストーンなどや火星表面の模様など、きわめてコントラストが低く背景に埋もれがちな部分も明瞭に浮かび上がります。初めて見た木星のイメージはいまだに忘れられないものとなっている。

これを取扱いされている笠井さんいわく、「18センチならこの程度だろう」という思い込みは多かれ少なかれ、良い方に裏切られるでしょう。そのかわり

「18センチならこの架台に載るだろう」といった思い込みもは逆に悪い方に裏切られます。まさにその通りで、18センチなのに赤道儀はNJPでないと苦しく、庭に持ち出すだけでも大変な作業となります。使用するときは明るい時からセッティングしなければならず何かと大変ですが、眼視派にはたまらない望遠鏡です。

前置きが長くなりましたが、その後にゆっくりと館内を見せてもらいました。



これがまた想像以上で、望遠鏡だけで300台以上、100年以上前の歴史的な望遠鏡からエポックメイキングなもの、若いころに欲しかったやつ、今はない名機から初めて見るものまで昔からの天文ファンならたまらないところとなっていた。



四国遠征はさぬきうどんを食べることと、ここに寄るのがお勧めです。